

令和2年 第6回教育委員会定例会議 会議録

1 日 時 令和2年6月24日(水)
開会 13時30分
閉会 14時10分

2 会 場 金沢市役所第二本庁舎 2階 2201会議室

3 出席委員(7名)

教 育 長	野 口 弘
教 育 委 員	田 邊 俊 治
〃	岡 能 久
〃	大 島 淳 光
〃	丸 山 章 子
〃	木 村 陽 子
〃	長 澤 裕 子

事務局	教育次長(兼)学校教育部長	加 藤 弘 行
	教育総務課長	堀 場 喜一郎
	教育総務課担当課長(兼)課長補佐	松 田 潤一郎
	担当部長(兼)学校職員課長	羽 場 政 彦
	学校職員課担当課長・管理主事(兼)課長補佐	田 村 創
	担当部長(兼)学校指導課長	寺 井 義 春
	学校指導課担当課長(兼)課長補佐	青 山 雅 幸
	市立工業高校事務局長	新 出 光 昭
	生涯学習部長	中 坂 暢 江
	生涯学習課長	村 田 英 彦
	(兼)長土堀青少年交流センター所長	
	キゴ山ふれあい研修センター所長	直 江 義 弘
	図書館総務課長	池 田 光 穂
	(兼)玉川図書館長	
	(兼)近世史料館長、城北分館長	
	教育プラザ総括施設長	松 本 季 之
	(兼)地域教育センター所長	
	学校教育センター所長	熊 谷 有 紀 子

4 案 件

議案第21号	金沢市図書館の開館時間の変更について	(図書館総務課)
非 議案第22号	金沢市社会教育委員の委嘱等について	(生涯学習課)
報告第16号	学校給食におけるパン給食について	(教育総務課)
報告第17号	令和2年度金沢市教員採用候補者選考試験の申込状況について	(学校職員課)
報告第18号	金沢市立小・中学校再開後の授業時数確保等について	(学校指導課)
報告第19号	「金沢市宇宙教育推進懇話会」の設置について	(生涯学習課)

そ の 他

(1) 次回の定例会議の日程について

5 議事の経過等 以下のとおり

野口教育長の開議あいさつに続いて、傍聴希望者6名について協議し、傍聴を許可した。次に、議事録署名委員に長澤委員を指名した。本日の議題について野口教育長が議案第22号を非公開とするよう発議し、全会一致で非公開とすることを決定した。

審議に入り、議案第21号、報告第16号、報告第17号、報告第18号、報告第19号について説明・質疑応答が行われ、原案どおり承認した。また、7月の定例会議の開催日を次のとおり決定した。最後に議案第22号について非公開で審議に入り、原案どおり承認し、閉会した。

* 7月の定例会議の日程：令和2年7月22日（水）13：30～

[案件の説明及び諸報告について]

案件について、別添資料等に基づき事務局より説明・報告し、原案どおり承認された。

[主な質疑・応答の内容について]

○ 議案第21号 金沢市図書館の開館時間の変更について（図書館総務課）

（説明の概要）議案書2ページ。金沢市図書館の開館時間は金沢市図書館規則第4条に定められており、教育委員会が必要であると認める場合は変更できることとしている。目的は、夏休み期間中の児童生徒の図書館利用を促進し、子ども読書の推進を図ることである。変更内容は、午前10時の開館時間を30分繰り上げ、午前9時30分とする。実施期間は令和2年7月21日（火）～8月31日（月）の42日間である。実施する図書館は、玉川図書館（近世史料館を含む）、泉野図書館（平和町児童図書館を含む）、金沢海みらい図書館である。なお、玉川図書館城北分館については通年で午前9時30分開館となっている。

| （特になし）

○ 報告第16号 学校給食におけるパン給食について（教育総務課）

（説明の概要）議案書6ページ。パン給食については昨年3月に、本市小・中学校の約8割に相当する学校に給食用パンの納入を行ってきた業者と石川県学校給食会との契約が終了したことに伴い、それまで1週間に2回程度行っていたパン給食を翌4月から米飯の一時的な切り替えを行ったほか、昨年9月からは1カ月に2回程度のパン給食を実施してきた。こうした中、早期のパン給食の拡充に向け、これまで石川県学校給食会と協議してきたところだが、今般、県学校給食会より、石川県パン協同組合との協議の下、給食用パンの納入を拡充できる見通しになったとの連絡があったことから、本年9月から市内の全小・中学校で1週間に1日程度のパン給食の実施が可能となった。今後、パン給食に合わせた献立を作成するなど、円滑な実施に向けて準備を進める。

| （特になし）

○ 報告第17号 令和2年度金沢市教員採用候補者選考試験の申込状況について（学校職員課）

（説明の概要）議案書8ページ。今年度は保健体育、工業の電気・建築の3区分でそれぞれ若干名の採用を予定している。申込者数は保健体育が15名、工業の電気が1名、建築が2名の計18名だった。第1次試験は7月4日（土）、5日（日）に金沢市立工業高等学校で行う。第1次試験の合否は、8月上旬に受験者全員に郵送で通知するとともに、市のホームページでも合格者の

受験番号を掲載する。2次試験は8月22日（土）を予定し、最終合否は10月上旬の予定である。なお、1次試験では、感染症対策に万全を期して行いたいと考えている。

田邊委員	申込者の年代はどうなっていますか。
羽場学校職員課長	計18名のうち、現在講師などの形で勤務している方が11名、社会人の方が2名、残りの方がアルバイトあるいは大学生になります。年代については40代の社会人の方が1名、30代が2名で、あとは20代で大学生や講師を務めている方という世代構成になっています。
田邊委員	社会人の方がいらっしゃるということですが、教員免許は保有していない社会人ということですか。
羽場学校職員課長	教員免許の期限が切れている方がいらっしゃいますので、合格が判明した時点で、3月までに早急に免許を更新していただきます。
大島委員	令和2年度が18名、昨年度が25名ということで、ここ最近、民間でもなかなか人を求めるのが難しい状況にあったのですが、これまでの数年の状況も大体このような感じですか。
羽場学校職員課長	一昨年度が28名、その前年度が22名ですが、過去3年については5区分で募集しており、今年度は3区分ですので、人数としては大体例年どおりと考えています。
野口教育長	毎年の傾向として工業の受験者が非常に少ないようですが、工業高校ですのもっと受験者が増えることを願っています。今年度、電気で1名の応募が出ています。この方がもし優秀で採用されれば問題ないのですが、もし採用されなかった場合、学校の授業に影響がないか非常に心配しています。いかがでしょうか。
羽場学校職員課長	現在、電気の区分は定数7名を何とか確保して授業を行っているということで、もしも採用がなかった場合は講師の方に継続していただくことになると考えています。

○ 報告第18号 金沢市立小・中学校再開後の授業時数確保等について（学校指導課）

（説明の概要）議案書10ページ。金沢市立小・中学校においては、6月から通常どおりの教育活動を実施しているところだが、授業時数確保のための調査を行った結果、昨年度4、5月の学級活動と学校行事を除いた授業時数が平均150時間程度だったことを踏まえ、学校再開後の通常の授業時数に加え、資料に示したとおり、各学校で授業時数の確保に努めている。

「1 確保する授業時数について」は、今ほどの説明のとおり、150時間程度を考えている。

「2 授業時数確保への対応について」は、小学校については土曜日に10日、夏季休業期間に4日、冬季休業期間に2日の授業日を設定し、64時間程度を確保し、その他、朝学習の活用、時間割編成の工夫や学校行事の重点化などにより86時間程度を確保する。中学校については土曜日に9日、夏季休業期間に8日、冬季休業期間に2日の授業日を設定し、80時間程度を確保し、その他、小学校と同様に時間割編成の工夫や学校行事の重点化などにより70時間程度を確保する。

「3 野田中学校の授業時数確保について」は、野田中学校は他校よりも臨時休校期間が長かったため、他の学校よりも多く夏季休業期間中に授業日を設定する必要があることから、暑さ対策のため、エアコンを設置済である泉野小学校校舎を利用することとする。授業日は7月27日

(月)～8月7日(金)の期間、土日を除いた10日間を設定する。いずれも午前中に4時間、授業を行う。対象は2、3年生の13学級である。

丸山委員	夏休みまでで小学校では86時間、中学校では70時間を大体確保できる予定だと思うのですが、残りの時間は9月以降の土曜日、あるいは冬休み、春休みなどを使って、今年度中に補う予定でしょうか。
寺井学校指導課長	今ほど申し上げた150時間というのは、3月までの年間を通して確保する授業時数です。土曜日だけですと小学校の場合は40時間になります。150時間を短い期間で確保するのではなく、本年度を通して確保していくことで、児童生徒の極端な負担にならないように配慮したいと考えています。
長澤委員	新型コロナウイルス感染症の第2波が訪れた場合、このスケジュールに関してどのような対策を考えておられますか。
寺井学校指導課長	今現在、第2波、第3波、それから通常の季節性のインフルエンザ、自然災害などのさまざまな要因が予想されます。学校指導課でも、その場合ごとのシミュレーションを何パターンか繰り返し行っているところです。ただ、基本的には国が示すように、その地域の感染状況としてレベル1～3の区分に分けられていますので、その時点で本市がレベル1～3のどの状況かということ踏まえて、学校の休業期間や休業の対応についても考えていきたいと思っています。 現在、本市はレベル1の段階ですので、感染の傾向からするとだいぶ落ち着いている状況になります。ただ、今日もニュースに出ていましたけれども、他の地域で生徒からの感染が判明した場合は、文部科学省からもありますように、0か100かではなく、臨時休業があってもできる限り短い期間で学校を再開し、学習を止めないための手立てをあらゆる方法で取っていききたいと考えています。ですので、できる限り休業期間は短くして、学校での授業時数をできるだけ確保していくということで今後の対応を考えていきたいと思っています。
長澤委員	方向性について理解しました。
木村委員	野田中の対象学年が2、3年となっているのですが、1年生はどうなるのですか。
寺井学校指導課長	野田中が昨年度、他の学校よりも早めに臨時休校になったときは、今の2、3年生が当時の1、2年生でした。野田中は2月25日から臨時休業になりましたが、今の野田中1年生は当時小学校6年生でしたので、特別長く臨時休業になったわけではありません。今の2、3年生だけが他の学校よりも臨時休業が長くなりました。
岡委員	先生方も授業時数を取り戻すのは大変だと理解していますが、「学級活動、学校行事を除いた時数」とあります。自分がもし生徒だったとしたら、学校行事の方が楽しいかもしれません。それがなくなってしまうと、めりはりがなくなるかなと思うので、なるべく配慮していただければと思います。
寺井学校指導課長	ご指摘のとおり、感染がかなり拡大していた時期には、学校にも見通しを持たせるため、本市主催の行事等も中止とさせていただきますが、今後は感染対策に万全を期した上で、学校行事は子供たちに潤いを与え、さまざまな成長の機会を与えるものですので、できるだけ時期や方法などを

工夫しながら、子供たちに思い出が残るような学校行事を実施していくよう支援していきたいと考えています。

田邊委員

授業時数の確保の対応ですけれども、子供たちがコロナ禍の影響で学べなかった学習内容をどうやってきちんと保証するのかというのは、様々な対応で取り組んでいく必要があると思います。例えば短縮授業を進めていくような方法もあるでしょう。小学校では1コマが45分ですから、内容によっては短縮できる部分もあると思いますので、そのような工夫も柔軟に行っていけばいいと思います。授業時数ありきで考えると、それを通して何をするのかという目的を見失う可能性があると思うので、押さえるべき目的をぜひ確認する必要があると思います。

それから、今年できなくても来年できるという保証が言い切れない不安材料もあるので、今年できることは短縮・縮小してもできるという環境を設定していく必要があるでしょう。他方で、必ずしも授業時数ありきではないというメッセージもあっていいだろうと思います。教科書会社も、内容を複数年にわたって対応するとすればという参照例を提示しているので、当該学年で今年十分にできなかったことも、最終学年では難しいかもしれないかもしれませんが複数年で対応できるような在校生であれば、柔軟な対応として想定しておいてもよいと思います。

寺井学校指導課長

短縮授業等については、学校によっては週1～2回程度、7限目を設定するところもありますが、そのような時間を実施する場合は、小学校なら45分を40分、中学校なら50分を45分に短縮する形で7限にするなどして、できる限り子供たちの極度な負担にならないように学校にも指導しています。

また、ご指摘のとおり、時間が確保されれば全てよしというわけではなくて、一番大事なことは学習内容がしっかりと履修され、理解され、定着することですので、まずは時間数というよりは、履修のためにどういう時間数、指導方法の工夫が考えられるかという点を、学校指導課としても強調して取り組んでいるところです。特に小6、中3の最終学年については、特に受験に関わる部分が未履修ということはあってはならないことなので、そこも含めてしっかりと履修に努めてほしいということを伝えていきます。

教育課程については、今の学年のものを3月までに終えることを大前提としています。ただ今後、感染状況に大きな変化があった場合についても幾つかシミュレーションはしておりますが、現在の状況でいけば、とにかく学校には「当該学年の学習内容を年度末までにしっかりと履修させてほしい、そのためにあらゆる工夫をしてほしい。指導課としてはあらゆる応援をする」というメッセージを送っているところです。

田邊委員

学校の事情をくみ取っていただき、ぜひ柔軟な対応をお願いします。

野口教育長

野田中に関してですが、小学校を利用して授業を実施することは全く構わないのですが、生徒の体の大きさを考えると、使用する机や椅子は小学6年生が使用するものでも随分窮屈だなという感じを受けます。野田中の生徒が泉野小を使うときに工夫することや、3密を防ぐための工夫があれば教えてください。

寺井学校指導課長

机・椅子については、小学6年生が使っているものであってもやはり小さいので、いったん教室から出して、会議用の机と折り畳みの椅子をレンタルして全生徒に利用させたいと考えています。この会議室にあるものよりもやや小ぶりにはなりますが、できるだけ生徒の状況に合わせた机・椅子を用意したいと考えています。また、3密を避けるために、会議用の机

ではどうしても間隔を取りづらいところもあるので、アクリル板を設置するなどして、できるだけ工夫したいと思います。

ただし、教科によってはどうしても近づくような学習活動になることも想定されるので、現在2、3年生は計411名おりますが、全員分のフェースシールドを用意して、適宜学習の状況に応じて使用できるような準備をしたいと思っています。

野口教育長

ぜひ良い環境の中で、遅れた学びを取り戻してほしいと思っています。最大限の配慮をお願いします。

○ 報告第19号 「金沢市宇宙教育推進懇話会」の設置について（生涯学習課）

（説明の概要）議案書12ページ。平成28年度に策定した金沢市宇宙教育推進計画の3年間の事業を検証するとともに、今後のさらなる宇宙教育の推進に向けて、宇宙・教育・産業の有識者で構成する懇話会を設置し、中長期的な新しい計画を策定するための、本市が目指すべき宇宙教育推進の方向性について提言を頂くものである。

計画のポイントとしては、「宇宙分野での貢献を本気でめざす人材の育成」「広く市民が宇宙に興味を持てる環境づくり」を想定している。

委員は金沢宇宙塾の塾長でJAXA広報普及・主幹付の清水幸夫氏、金沢大学理工研究域教授の八木谷聡氏、金沢大学人間社会研究域准教授の加藤隆弘氏、金沢星の会会長の中嶋秀夫氏、金沢青年会議所理事長の鶴山雄一氏、同じく政策参与の高穂菜氏、金沢市立工業高校教頭の水野勝正氏の以上7名にお願いしたいと思っている。

また、アドバイザーとして、JAXA名誉教授的川泰宣氏、銀河の里キゴ山名誉館長で国立天文台副台長の渡部潤一氏、日本宇宙少年団金沢支部長の米井裕一氏、日本宇宙フォーラムの伏見一也氏、株式会社アクセルスペース代表の中村友哉氏、SpaceBD株式会社の永崎将利氏の以上6名の委嘱を予定している。

今後は、7月29日（水）に第1回の懇話会を予定している。10月に第2回の懇話会を開催し、11月頃に教育委員会に対して提言書を提出していただき、本市の新しい宇宙教育推進計画を年度内に策定する予定である。

田邊委員

新しい計画は「中長期的」と表現されていますが、どのぐらいの期間を見越して立てる計画ですか。

村田生涯学習課長

前回の計画は3年計画でしたが、中長期的ということで、5～10年程度だと考えています。

田邊委員

その中でいつ、何をするのか、ぜひ計画の中に盛り込んでいただければと思います。

長澤委員

11月に提出予定の提言書には、これまでの3年間の検証結果および今後のビジョンや計画が示されるという理解でよろしいですか。また、提言書は見ることはできるのでしょうか。

村田生涯学習課長

3年間の課題を整理して、近年の宇宙に関する新しい知見や動きを新しい計画にも反映したいと思っています。10月に第2回懇話会を開催しますが、そのあたりで一度、当会議で中間報告という形でお示ししたいと考えています。

丸山委員

「宇宙分野での貢献を本気でめざす人材の育成」というのは、金沢市から宇宙飛行士を誕生させるとか、それぐらいのところまで望んでもいいの

でしょうか。想像が膨らんで、そうなるといいなと思うのですが、そこま
でを目指す計画があるのでしょうか。

村田生涯学習課長

宇宙飛行士を金沢から誕生させたいということもありますが、先日も新聞に、金沢大学で開発している超小型衛星をJAXAのロケットに搭載して打ち上げ、それで重力波の研究を進めるという報道も出ていました。そういった宇宙に関する産業を本気で目指していくような人材を育成することも、私どもの計画の視野に入っておりますので、宇宙飛行士以外でも宇宙に関する産業や教育分野など幅広い人材の育成につながってほしいと思っています。

野口教育長

昨年、一昨年あたりから、金沢でも人工衛星を打ち上げることができたらしいという方向でキゴ山ふれあい研修センターで頑張っていますし、金沢大学の八木谷先生は「人工衛星を金沢で作るのだったら、市立工業の生徒に製作のチャンスあげるといい」とおっしゃっていますので、ぜひそうしたところを大切にしながら、将来こうした分野で頑張ってもらえる子供が出たらいいなと思っています。十数年間、宇宙の分野に携わってきましたが、金沢の子供たちの中から今、三菱重工業のロケット作りに携わっている方も出てきていますし、天文学の分野でアンデス山脈の山中の電波天文台で頑張っている研究者も出ています。そういった点では、金沢の将来は明るいと思っています。

最近では、人工衛星を打ち上げることよりも、今後それをどう活用していくのかという分野に向かうべきだろうというアドバイスもあるので、そのことも踏まえて計画のポイントに生かしてもらいたいと期待しています。

今回、アドバイザーとして非常に素晴らしい先生方が集まっているので、この方々をどう生かしていくのかが大きなポイントになると思います。的川先生は「はやぶさ」プロジェクトのメンバーであり、内之浦（鹿児島）の打ち上げ台の初代台長でもあります。渡部先生もテレビなどに出演される天文学の大先生でいらっしゃいます。米井さんは元金沢市教育委員でいらっしゃいましたし、伏見さんは、お父さんが「MOMO」というロケットの開発で知られる北海道大樹町の前町長で、積極的な誘致に取り組んだ方でありました。永崎さん、中村さんは日本を代表するベンチャーの大社長ですし、本当にすごい方々が集まっています。計画を作るに当たってご意見を頂戴するととても良いものができると思いますので、期待しています。

以 上

会 議 録 署 名

教 育 長 _____ 署 名 _____

教 育 委 員 _____ 署 名 _____

(長澤委員)

[非公開議案の審議結果について]

○ 議案第22号 金沢市社会教育委員の委嘱等について（生涯学習課）

社会教育法第15条第2項及び金沢市社会教育委員設置条例第2条の規定により金沢市社会教育委員を委嘱及び解嘱します。

委員の委嘱及び解嘱

区 分		所属機関・団体名	役職	氏 名
委嘱	社会教育	金沢市青年団協議会	会長	宮田 悠佑
解嘱				河崎 智広

任期：令和2年6月24日から令和3年11月30日まで（前任者の残任期間）

理由：所属団体の役員改選に伴う委員の交代

以 上